

# 南小便り



No.12 平成 28 年 6 月 22 日

31年目を迎えたふるさと体験学習。開会式でお話した通り、「地域の皆さまとのふれあいを通して、この地を好きな子に育てたい」というご意見が、保護者の皆さまから寄せられています。



地域の指導者の皆さんから「もう少し指導者が欲しいです!」という声が、たくさん上がりました。近くにいらっしゃら方に、是非声を掛けてください。



子どもたちが、この体験活動を心から楽しみにしているのには理由があります。どこかの何かではなく、**すぐそこにあるしたいこと**ができるからです。自分たちと同じふるさとに住んでいる皆さんに、その方たちが昔やった遊びを、その遊びの道具作りを、手を取って教えてもらえるのです。皆さんの子ども時代への懐かしい思い出いっぱい。なんと、臨場感にあふれた体験でしょう。そこに、お父さんお母さんも一緒に活動するのですから、子どもにとって楽しくない訳がありません。

閉会式でお話したように、南っ子たちはふるさとへの“恩おくり”をする人になると思います。

たくさんの保護者の皆さんに参加していただいた心肺蘇生法の講習会。毎年毎年、実施方法の改善が少しずつ進んでいるようです。だからこそ、毎年参加していただきたいと思います。職員も、毎年欠かさず、水泳指導が始まる前に講習会を開いています。保護者の皆さんに受講していただくのは、地区水泳に備えてのことですが、いつ何時、ご家庭で、地域で、心肺蘇生の必要に迫られるかもしれません。玉田さんをはじめ体育部の皆さん、お世話になりました。



2年生が高岡の**稲荷神社**に見学に行き、近くにお住いの山羽勲さんにお話を聞きました。子どもたちの質問に、丁寧にお答えいただきました。もともとご存知のことだけではなく、いろいろと調べられたうえでのお話でしたので、とても詳しく分かりやすかったです。ところで皆さん、お稲荷様のお使いはどうして狐なのかご存知ですか？



4年生以上で**田植え体験**をしました。泥のヌルッとした感触を楽しみながら、上手に植えました。指導者のお一人が、「これだけおったら田植え機に負けへんな。田植え機より真っ直ぐに植えてくれた。」と言ってくださいました。1時間の予定がわずか20分で終了。稲坂陽吉さんをはじめとする地域の皆さま、ありがとうございました。



香川県に行くことがあって、昼にうどんを食べることにしました。せっかくだからということで、ネット上で話題の2つのお店で食べました。どちらもすごい行列で、100名以上はお待ちでした。わたしたちも1時間は並んだと思います。座っている時間はあっという間で一気に食べました。帰りの車の中で妻が言いました。「わたしは、〇〇製麺でええわ」。家のすぐ近くにあるお店です。**すぐそこに食べたいものがある**というのは幸せなことなのでしょうが、せっかくの高速代

うどん屋さんの店先に左のようなのぼりが立っていました。まさか、香川県で伝の助を見るときには思いませんでした。

と時間はどうなるのでしょうか。